

平成 28 年度 学内推薦入学試験

【教育に関する小論文】

- ◆ 以下に示す A, B の二つの課題に答えなさい。別紙、解答用紙の ^{おもて}表 面に【課題 A】、裏面に【課題 B】を論述すること。

【課題 A】

次の表は、生活習慣・学習習慣と学力との関連を示したものである。小学校の学級担任として、生活習慣・学習習慣の指導にどのように取り組むか、できるだけ具体的に述べなさい。

学校に行く前に朝食を食べますか。				
児童の回答	児童の平均正答率 (%)			
	国語(第4学年)		算数(第4学年)	
必ず食べる	83.5	82.8	73.9	72.9
たいてい食べる	76.2		63.3	
食べないことが多い	71.0	70.0	56.9	56.4
食べない	66.8		54.7	

学校へ持っていく物を前日か、その日の朝に確かめますか。				
児童の回答	児童の平均正答率 (%)			
	国語(第4学年)		算数(第4学年)	
確かめる	84.9	83.7	75.5	73.9
たいてい確かめる	81.2		70.7	
確かめないことが多い	76.4	75.1	65.2	63.7
確かめない	69.9		57.9	

平成 21 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果より

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。				
児童の回答	児童の平均正答率 (%)			
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
している	76.8	60.3	84.5	64.2
どちらかといえばしている	73.9	56.4	81.7	61.1
あまりしていない	68.5	49.5	76.7	55.4
全くしていない	61.6	41.2	70.8	48.5

A…主として「知識」に関する問題 B…主として「活用」に関する問題
平成 21 年度「全国学力・学習状況調査」結果より

【課題B】

小中高等学校の全ての教科等で、「思考力・判断力・表現力」等の育成が重視されている。平成26年12月22日の中央教育審議会答申では、こういった能力の育成に関わる「調査問題の例」の一つとして、これまでの「全国学力・学習状況調査」を挙げている。

例えば、「全国学力・学習状況調査」の平成19年度と20年度の「中学校国語B（活用）問題」の一つとして出題されたのが、以下のような問題である。

【平成19年度】

芥川龍之介の「蜘蛛の糸」の全文を掲載した後、「中学生の中山さんと木村さんは、以前読んだ『蜘蛛の糸』は、『三』の場面が省略されていたことを思い出しました。そして、次のような会話を交わしました。」として、次のような設問へと続く。

中山さん 私はこの「三」はないほうが良いと思うな。

木村さん いや、この作品には「三」があったほうが良いと思うよ。

あなたは、中山さん、木村さんのどちらの考えに賛成しますか。どちらか一人を選び、あなたが選んだ人の名前を解答用紙に書かれている書き出しの文の□に書きなさい。そのうえで、あなたがそのように考える理由を、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 書き出しの文に続けて書くこと。

条件2 本文中の表現や内容に触れること。

条件3 八十字以上、百二十字以内で書くこと。

【平成20年度】

「気になる日本語（全然）」の使い方をテーマとして中学生の中西さんがレポートを作成したことを基に、次のような問題を設定している。

中西さんのレポートを読みながら、南さんと原さんは、「全然」の使い方について次のように話しています。

南 私は、「全然明るい」という言い方をしてもいいと思う。

原 私は、「全然明るい」という言い方はしない方がいいと思う。

あなたは、南さん、原さんのどちらの考えに賛成しますか。どちらか一人を選び、（中略）あなたがそのように考える理由を、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 レポートにある国語辞典の記述やグラフの内容を根拠にして書くこと。

条件2 根拠にした国語辞典の記述やグラフの内容を具体的に挙げて書くこと。

条件3 「なぜなら、」に続けて、七十字以上、百字以内で書くこと。

こうした問題（学習活動）が意図した能力の育成の在り方について、あなたの考えるところを述べなさい。

平成 28 年度 A 日程入学試験

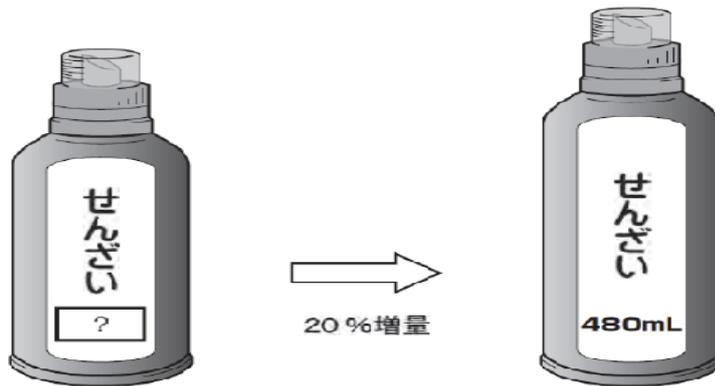
【教育に関する小論文】

- ◆ 以下に示す A, B の二つの課題に答えなさい。別紙、解答用紙の表面に【課題 A】、裏面に【課題 B】を論述すること。

【課題 A】

下記の問題は平成 27 年度「全国学力・学習状況調査」において出題されたものの一つです。

- (2) 次に、せんざいを買います。家で使っているせんざいが、20%増量して売られていました。増量後のせんざいの量は 480 mL です。
増量前のせんざいの量は何 mL ですか。求める式と答えを書きましょう。

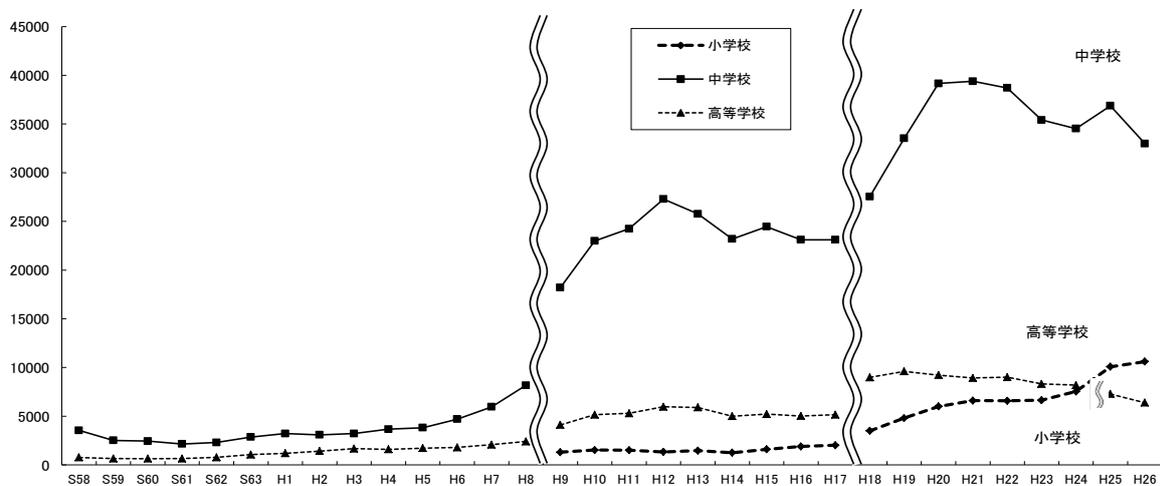


- ①求める式と答えを書きなさい。

②この問題を解けない児童がクラスに 3 人いて、放課後に質問にきました。担任のあなたと 3 人は教室にいます。あなたは 3 人にどう指導しますか。話す内容と板書、指導と評価を踏まえて書くこと。

【課題B】

下のグラフは、平成27年9月に文部科学省が発表した「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」の中の「学校内における暴力行為発生件数の推移」を示したものです。



(注1) 平成8年度までは、公立中・高等学校を対象として「校内暴力」の状況について調査している。

(注2) 平成9年度からは調査方法等を改めている。

(注3) 平成9年度からは公立小学校、平成18年度からは国私立学校も調査。また、中学校には中等教育学校前期課程を含める。

(注4) 平成25年度からは高等学校に通信制課程を含める。

- ① このグラフを見て、現在の子ども達の育ちに関して、どのような切実な課題があると読み取りましたか。あなたが最も重要と考える切実な課題を一つあげなさい。
- ② ①であなたが指摘した課題について、その背景としてどのようなことが考えられますか。簡潔に述べなさい。
- ③ ①であなたが指摘した課題を改善するために、今後、教師として児童生徒にどのような指導・援助をすることが重要だと考えますか。あなたの考えを簡潔に述べなさい。

平成 28 年度 B 日程入学試験

【教育に関する小論文】

- ◆ 以下に示す A, B の二つの課題に答えなさい。別紙、解答用紙の表面に【課題 A】、裏面に【課題 B】を論述すること。

【課題 A】

文部科学省（2010）『生徒指導提要』では、すべての教育活動に生かすべきこととして、次のような生徒指導（生活指導）の 3 つの機能（カギ括弧で示したもの）について解説されています。

- ・「自己決定の場を与える」ことによって自己決定感をもつことができる。
- ・「自己存在感を与える」ことによって自己有能感を得ることができる。
- ・「共感的人間関係を育成する」ことによって他者受容感を抱くことができる。

小学校の学級担任として学級経営や授業にどのように取り組むか、それぞれの機能ごとになるべく具体的にその手立てを述べなさい。

- 【課題 B】 「発問」について、以下の 3 氏は次のように述べています。

佐伯胖

- 本来の発問は、触発的な発問だと思う。答えを言わせる発問ではなく、教師の発問が刺激となって子どもの探究がはじまる発問こそ真の発問である。

〈佐伯胖『「学び」を問いつづけて』2008年1月4刷、小学館〉

田近洵一

- まず教材（作品）との出会いを切実なものにすることによって、子どもの内に内面の葛藤、つまり矛盾の感覚をひき起こし、それを意識化させていかなければならない。そのための起爆剤として最も有効なのが、実は教師の子どもへの問いかけ（発問）なのである。教師の問いが、子どもの葛藤をひき起こしたとき、それが子ども自身の問いとなる可能性が生まれる。

〈田近洵一『国語教育の方法 ことばの「学び」の成立』1997年、国土社〉

本来の「発問」とは、佐伯氏は「触発的な発問」といい、田近氏は「教師の問いが、子どもの葛藤をひき起こす発問だ」と述べています。両氏に共通しているのは、子どもたちの学習「意欲」を引き起こさせる発問こそ、「本来の発問」「真の発問」だということでしょう。

○社会科教員の有田和正氏は、「バスの運転手は、どんな仕事をしていますか

…？」とは発問せずに、あえて、「バスの運転手は、どこを見て運転していますか…？」と発問しています。

- 一度も手紙をもらったことがない「がまくん」に手紙を書いてあげた「かえるくん」が、「きょうは、だれかが、きみに、お手紙、くれるかもしれないよ。」と言いますが、がまくんは、「ばからしいこと、言うなよ。」と言います。(物語教材「お手紙」)

「この時、がまくんは、どんな気持ちだったのでしょうか。」と発問するところですが、国語科教員の佐藤佐敏氏は、あえて、『ばからしいこと、言うなよ。』は、おこったように読んだほうがよいですか。悲しそうに読んだほうがよいですか。」と発問しています。いずれも、学習者の学習意欲を高める発問だといっているでしょう。

- そこで、上記を踏まえて、教育実習の経験（失敗談等）などで、「このような発問をしてしまった」が、「もっと、このような発問をすればよかったかも」といったことを具体的に述べてください（教科等は問いません）。